

パパたちよ 保護者会に行こう!

笑っている父親を増やそう! 仕事に、育児に、家事に主体的に取り組むお父さんを応援する活動をしているNPO法人「ファザリング・ジャパン」。その代表理事を務める安藤哲也さんと原崎市長が、男性の家事・育児への参画について対談しました。



きる男性を探したほうが、あなたも輝けますよと言っています。

子どもの予定を知ろう

市長 私事ですけど、子どもの行事に仕事で行けないことも多いですけどね。

安藤さん 結果的にはそうでも、子どもの予定が分かっていることは良いことだと思います。関心を持っているわけだから。

市長 見に行きたかったなという思いは確かにあります。

安藤さん 私は、子どもの行事にはほとんど参加していません。今、パパたちには「4月の保護者会に必ず行こう」とアドバイスをしています。4月の保護者会では、年間の行事日程を教えてください。それを元に年間の予定を全部入れて、その日は仕事を休むよう調整するのです。

市長 私が幼稚園のおやじの会の会長をしていたときは、園の行事を教えてもらって、確認していましたね。

安藤さん パパたちは行事に来ないと決めつけているママたちもいるので、パパたちは、自分から情報を取りに行くことから始めないといけないのです。

市長 上の子が生まれたときに、子育てに関わりたいたいと思うようになりました。ちょうどその時に「パパスクール・ふくつ」が始まって参加したんですよ。

安藤さん 子どもと関わることでできるのは期間限定ですが、やれる時にやっておくのが良いと思います。男性が育児や家事に関わるのと、女性が社会に出て働くことは表裏一体です。両方を意識していかないといけないですね。それは決して個人の家庭の中だけの話ではなくて、職場や周囲の人々も理解していかねばならないことですね。市の男性職員は育児休業を取得されていますか。

市長 今、1人が育児休業を取得しています。

安藤さん 例えば、その職員が市長と対談する機会を設けて、広報等で紹介してみてもいかがでしょうか。男性も育児休業を取得できるということ

とを、庁内だけでなく、広く市民のみなさんにも知っていたことが必要です。これから子どもを持つ人たちが、「自分も取ってみよう」と思えるように、市長が自ら、「これは良いことだ」と褒めていくといいですね。

保育所の送迎はパパたちが増えた

市長 人口が増え続けている本市では、子育て環境を整えるため、待機児童解消に向けた保育所の整備を進めています。自転車に子どもを乗せて走っているパパの姿を見かけることが増えました。

安藤さん 20年前は東京でも珍しかったんですけどね。今はパパが送るのが8割くらいになっていますよ。

市長 私が子どもの頃は、父親が仕事中心で、母親は家事や育児中心という時代でした。今の若い人は、父親の家事や育児は当然のことと思っているようです。

安藤さん 私は、婚活事業に講師として招かれることも多いのですが、男性に対して、「稼ぐことだけでなく、育てることもやりなさい」と声掛けします。家事もやれる男性が好まれるようになってきているからです。これが、自分の「結婚力」になるんです。女性も働き続けることを考えて、育児や家事もやってくれるパートナーを選ぶ時代になっています。育児や家事がで

平成30年度

「男女がともに歩む」一行詩 優秀作品

【小学生の部】

- 大切にしてよう
ひとりひとり持っている色
《勝浦小学校5年 森崎夏樹さん》
男女とわず好きなことをすればいい、
そんな世の中つくりたい。
《上西郷小学校5年 鈴木快晴さん》
男女いっしょに
すみよいくらしをつくる
《神興小学校4年 吉田白虎さん》
男女共に歩み、夢も共に歩む
《神興東小学校6年 永瀬友陽さん》
男女らしさ関係なく
自由に生きる自分がほしい
《津屋崎小学校5年 花田昌子さん》
考えよう 男女の「さ」じゃなく、楽しさを
《福岡小学校4年 宗田歩望さん》
男女なんか気にせずに、
「自分らしさ」を見つけに行こう
《福岡南小学校5年 島尾珠生さん》

【中学生の部】

- 家庭科の 調理の宿題 ほめられた
初めて作った パパのカレー
《津屋崎中学校3年 穴井徹さん》
父は外、母は内、そんな考えもう古い。
《津屋崎中学校3年 峯侑夏さん》
「イクメン」という呼び名はもういらない。
二人で子育て、あたり前。
《福岡中学校3年 河野駿斗さん》
男も女も チャンスは平等
ピンチは協力
《福岡中学校3年 塩原暖さん》
女性も 男性も それぞれが輝ける社会へ
《福岡東中学校2年 北崎心優さん》
おたがいの ささえ合いで
家庭ができる 仕事ができる
《福岡東中学校2年 大村涼葉さん》

【高校生の部】

- 男女で 協力するから 広がる未来
《光陵高校1年 池田明日香さん》
家事育児 主婦と主夫で 分け合おう
《光陵高校1年 上妻淳樹さん》
母の味 こっちもいいぞ 父の味
《光陵高校1年 綿林暁さん》
お互いの個性で創る 男女の輪
《水産高校1年 岡田彪太郎さん》
男女の差
分かち合うために あるものです
《水産高校1年 谷柝平さん》
自分の性別は 自分自身で決める。
男女なんて 関係ない
《水産高校1年 宮口莉衣さん》